



# 株主 通信

2015年冬号



MITSUI & CO.

証券コード8031

目次	2	株主の皆さまへ	16	関係会社紹介
	6	国内ビジネス	19	社会・環境への取り組み
	9	ニュースフラッシュ	20	要約連結財務諸表
	12	モロッコ特集-挑戦と創造 世界の街角から	23	会社概要/株式情報
			24	株主さま アンケート結果のご報告

写真 当社社有林:清滝山林(京都府)

# 株主の皆さまへ

代表取締役社長 やすなが たつ お 安永 竜夫

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。  
2016年3月期上半期の業績と取り組みについて、ご報告申し上げます。

世界経済は拡大の続く米国が回復を主導しつつも、予想を上回る中国経済の減速が他の新興国や先進国の成長へも影響し、全体として非常に緩慢な成長にとどまりました。

上半期の業績は前年同期比921億円減益の、1,306億円となりました。資源・エネルギー分野では商品市況下落の影響が大きく、大幅な減益となりましたが、化学品事業やベンチャー投資などが予想を大きく上回って収益に貢献しました。これら進捗や昨今の経営環境に基づき年間業績予想を見直した結果、期首予想の2,400億円を据え置きました。また、堅調なキャッシュ創出力を背景に予想年間配当も期首予想の1株あたり64円を据え置き、中間配当は1株あたり32円としました。

収益基盤のさらなる強化に向けた上半期の取り組みにも、手応えを感じています。順調な経済成長の続く米国では、拡大する物流ニーズを支えるトラックリース事業が収益貢献を始めたほか、シェールガスを原料とするメタノール製造事業が生産を開始、液化天然ガス (LNG) の輸出プロジェクトも順調に建設が進んでいます。このほかにも、化学品分野では製造から販売、物流に関わるさまざまな事業に着手しており、相乗効果を発揮する事業群の構築が進んでいます。「食糧と農業」の攻め筋では、好調を続ける飼料添加物事業の拡張検討やサーモン養殖加工事業の拡大投資、植物タンパクの食品ベンチャーへの出資など、北米・南米を中心に取り組みを加速させました。また、長く当社の強みである資源・エネルギー分野でも、豪州鉄鉱山や関連インフラの拡張投資が収益貢献を始めたほか、豪州やモザンビークでのLNGプロジェクトの開発準備が着実に進捗するなど、中長期視野に基づく事業強化に成果がありました。

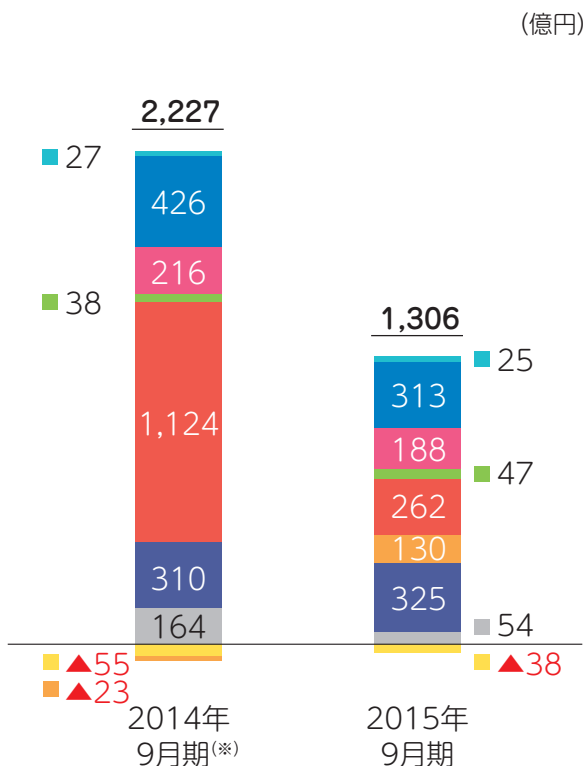
本年4月に社長に就任して以来、国内各所や海外15か国を訪問し、それぞれの元首や大臣などと国創りへの貢献について話し合い、パートナーや取引先企業のトップと今後のビジネス展開について協議しました。また、各地の当社の最前線を視察し、次の時代に向けた新たな取り組みについて社員と討議しました。日々切磋琢磨する現場の頑張りに触れ、当社の成長の原動力の強さをあらためて実感し、さらなる現場力の強化や支援体制作りへの決意を新たにしました。

今後もこれまで以上に「元気で力強く迫力ある三井物産」を目指しますので、株主の皆さまの変わらぬご支援とご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

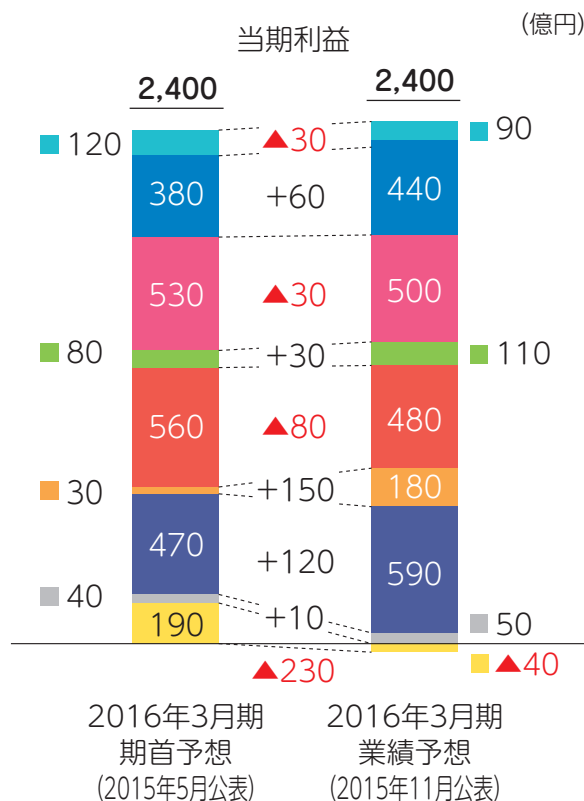


# 2016年3月期上半期連結決算

## 上半期利益(セグメント別)



## 年間業績予想(セグメント別)



■ 鉄鋼製品   
 ■ 金属資源   
 ■ 機械・インフラ   
 ■ 化学品   
 ■ エネルギー   
 (※)2015年4月1日付の機構改組に伴い数値を組み替え。  
■ 生活産業   
 ■ 次世代・機能推進   
 ■ 海外   
 ■ その他、調整・消去

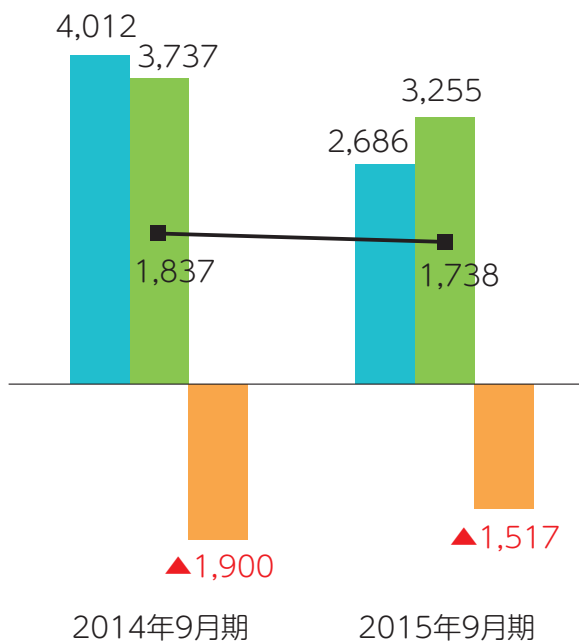
エネルギーおよび金属資源セグメントで原油・鉄鉱石価格の下落を主因にそれぞれ862億円および113億円の減益となりました。一方、次世代・機能推進セグメントで企業投資開発事業における株式の公正価値評価益などにより153億円の増益となりました。

セグメント別の内訳修正として、次世代・機能推進セグメントで株式の公正価値評価益などにより期首予想比150億円の増益を見込む一方、生活産業セグメントでマルチグレインの暖簾減損や集荷販売の不調により、同230億円の減益を見込みます。

※本冊子では、21ページの連結損益計算書の「四半期利益(親会社の所有者に帰属)」を「上半期利益」と表記しています。

## 財政状態およびキャッシュ・フロー

(億円)



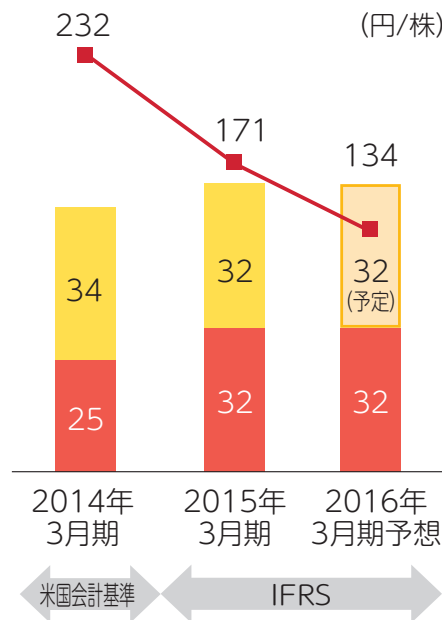
- 基礎営業キャッシュ・フロー\*
- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリーキャッシュ・フロー

総資産は2015年3月末比で約5,000億円減少の約11兆7,000億円となりました。株主資本と借入のバランスに係る財務の健全性をはかる指標の一つであるネットDERは0.84倍となり、2015年3月末比で0.02ポイント上昇しました。

※営業活動に係るキャッシュ・フロー – 運転資本の増減に係るキャッシュ・フロー

## 配当

(円/株)



年間配当	59円	64円	64円
連結配当性向	25%	37%	48%

- 期末配当
- 中間配当
- 1株あたり利益

予想年間配当金は、連結業績予想2,400億円を前提に、堅調なキャッシュ創出力や配当額の安定性・継続性を勘案し、1株あたり64円を予定しています。中間配当は、その半額の1株あたり32円としました。

# 国内ビジネス

ここでは、当社が世界各地で展開するビジネスのほかに、ホームグラウンドであるわが国日本で進めている当社のビジネス・価値創造活動をご紹介します。



## 「<sup>もり</sup>仙台うみの杜水族館」がオープン

<http://www.uminomori.jp/>



2015年7月、宮城県仙台市に「海と人、水と人との、新しいつながりを“うみだす”水族館」をコンセプトとした「仙台うみの杜水族館」がオープンしました。

この水族館では東北最大級の展示規模を誇

る9,900平方メートルの床面積に約100基の水槽を持ち、約300種、5万点もの海の生物を展示しています。

中でも三陸の海を再現した幅13メートル、高さ6.5メートルの大水槽「いのちのきらめくうみ



大水槽「いのちのきらめくうみ」



## QRコードを利用した多言語翻訳ツール開発企業への出資

当社は、2014年にQRコードとクラウドによる翻訳機能を組み合わせた多言語翻訳ツールの開発・運営を行うベンチャー企業ピジン社に出資しました。

日本を訪問する外国人は年々増加していますが、観光名所などでの外国語表示の不足が指摘されています。ピジン社の開発した「QRトランスレーター」(QR Translator)は、スマートフォンやタブレットでQRコードを読み取ると使用者の携帯端末の言語設定を認識して翻訳文を表示させるものです。言語によっては音声読み上げ対応しています。すでに国内の観光地や商業施設、空港などに導

入されており、今後は、当社のネットワークを活用して広範囲に展開し、観光事業や産業分野での活用に取り組みます。



QRトランスレーターの利用例：当社の会社案内へ

み]は、太陽の光できらめく水槽に三陸沿岸・近海に生息する50種、25,000尾の魚たちが泳ぎ、圧巻の迫力です。そのほかにも、アシカの仲間のオタリアやペンギンと触れ合ったり、展示やワークショップを通じて水産業について学んだり、イルカやアシカの臨場感あふれるパフォーマンスなど、幅広い年代が楽しめる施設です。

また、地元の方に惜しまれながら2015年5月に閉館した「マリンピア松島水族館」より、生き物やスタッフの方々と共に同館が長年の歴史を通じて蓄積してきた知識や経験を継承しています。

当社は、本プロジェクトの開発、推進およびファイナンス組成による資金調達を主導。そして、水族館運営において豊富な実績を持つ横浜八景島や宮城県を代表する企業であるカメイ、ユアテック、河北新報社、仙台三越との強いパートナーシップを組み、民間都市開発推進機構からの支援も得ながら、当社グ

ループ企業として飲食・物販業務を担うエームサービスや施設管理業務を担う三井物産フォーサイトも交えて、総合力を結集した高度な事業運営を実現しています。

今後も地域との連携を通じて、観光促進、教育や研究、環境保全や防災の拠点として、まちづくりに貢献していきます。



仙台うみの杜水族館で行われているアシカのパフォーマンス



## 健康成分を多く含んだ新種の玉ねぎ「さらさらゴールド」を開発・販売

当社は、2013年に北海道の植物育種研究所とさらさらゴールドに関する共同開発契約を締結し、2014年から販売を開始しました。このさらさらゴールドは、ポリフェノール的一种である「ケルセチン」を豊富に含むように品種改良された玉ねぎで、青果に加え、この玉ねぎを原材料としたドレッシングやスープ、飲料などの関連商品の開発など、販売拡大に向けた取り組みを行っています。当社は、さらさらゴールドの商品力に加え、「地方から日本を元気に」という考えのもと、北海道の持つ「農業技術力や構想力」と総合商社ならではのネットワークを駆使し、国内外で競争力ある野菜を世界へ展開し、日本の農業の未来に貢献していきます。



「さらさらゴールド」の収穫風景



「さらさらゴールド」



オニオン・コンソメ



玉ねぎ醤油



ONIONIのウェブサイトで紹介中  
<http://onioni.me/>



# ニュースフラッシュ NEWS FLASH

当社では、商品を軸とした13営業本部と地域を軸とした3地域本部が、それぞれの傘下の国内外関係会社と共に、世界各地で幅広く事業を展開しています。

ニュースフラッシュでは、当社が2016年3月期上半期(2015年4月～2015年9月)に発表したニュースの中から主なものを取り上げ、ご紹介します。そのほかの取り組みにつきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。

(当社ニュースリリースのサイト)

[http://www.mitsui.com/jp/ja/  
release/index.html](http://www.mitsui.com/jp/ja/release/index.html)



ハイドロ  
カーボンチェーン

資源(地下+  
地上)・素材

食糧と農業

インフラ

モビリティ

メディカル・  
ヘルスケア

衣食住と高付加  
価値サービス

次世代・機能推進セグメント / ICT事業本部

## サブサハラアフリカで高速携帯通信事業に参画

当社は、サブサハラアフリカ\*で第四世代の通信規格であるLTE方式による高速携帯通信事業を展開するアフリマックス・リミテッド(以下:アフリマックス社)に約5,000万米ドル(約60億円)出資しました。アフリマックス社は、世界最大手の携帯電話事業者であるボーダフォン社とのパートナーシップに基づき、高い知名度を誇るボーダフォン社のブランドでサブサハラアフリカ諸国においてサービスを提供する予定です。

サブサハラアフリカでは、携帯電話の普及率が約7割に達していますが、ブロードバンド回線の普及率が低いことから、インターネット普及率は7%程度にとどまり、インターネット環境の整備が求められています。

当社は、すでにインドネシアでLTE事業を展開し

ていますが、こうしたLTE事業を今後の経済成長が見込まれるアフリカ市場にも展開し、アフリマックス社を通してサブサハラアフリカ地域の情報通信環境の改善に取り組んでいきます。

※アフリカ大陸のサハラ砂漠以南の国々の総称



スマートフォンを利用するウガンダの女性

## 植物タンパクを開発・製造する米国食品ベンチャー企業へ出資

当社は、米国の食品企業ハンプトン・クリーク社に1,500万米ドル（約18億円）出資しました。同社は、動物タンパクを植物タンパクに置き換えた食品



植物卵を使用したハンプトン・クリーク社のマヨネーズでサンドイッチづくり

の開発・製造販売を行うベンチャー企業です。同社の植物タンパクは、鶏卵に替えてマヨネーズなどの食品原料として使用でき、いわば「植物卵」としての特性を備えています。

世界的な人口増や中間所得層の増加により動物タンパクの需要は今後も拡大することが見込まれる中、動物タンパク生産に必要な穀物用農地や水資源を使わずに作られる植物タンパクは環境負荷が少なく、「おいしく、手ごろで、持続可能」な食品の原料としての幅広い用途が見込まれています。当社は本出資参画を通じ、食料増産と食の安全・安心な供給に貢献するとともに、国内外のネットワークを活用して日本・アジア地域での「植物卵」の事業展開を目指します。

## オーストラリアのブラウズLNGプロジェクトでの基本設計を開始

当社が三菱商事(株)との折半出資合併会社を通じて参画するオーストラリアブラウズLNG（液化天然ガス）プロジェクトは、事前基本設計を完了し、基本設計を行うことを決定しました。本プロジェクトの最終投資決断は2016年後半を予定しています。

ブラウズLNGプロジェクトは、西オーストラリア州沖合のブラウズ鉱区群を開発し、LNGおよびコンデンサート\*1を製造・出荷するものです。また、同プロジェクトへの共同出資者であるシェル社のフローティングLNG技術\*2およびウッドサイド社の上流開発における知見を活用し、開発する予定です。

当社は、引き続き三菱商事との折半出資会社を通じ、ブラウズLNGプロジェクトの早期商業化を目指し、検討を進めていきます。



(Image courtesy of Shell)

LNG船完成イメージ図

\*1 天然ガス採取にあたり凝縮分離した軽質液状炭化水素

\*2 天然ガス生産・処理設備、LNGタンク、LNG液化・出荷設備を備えた海上複合生産設備

金属資源セグメント / 金属資源本部

## オーストラリアの鉄鉱石積出港および鉄鉱山拡張完工

当社と新日鐵住金(株)および世界有数の鉱物資源会社リオ・ティント社が共同運営を行っているオーストラリアのローブ・リバー・アイアン・アソシエイツ



ケープ・ランバート港で荷役中の鉄鉱石専用船

(以下:ローブJ/V)は、西オーストラリア州にある鉄鉱石積出港のケープ・ランバート港の年間出荷能力を増加させる拡張フェーズ2を計画通り完工しました。本拡張により、同港の年間出荷能力は約1.4億トンから2億トン超へと増加しました。

これに先立ち、ローブJ/Vは同社が保有するウェスト・アンジェラス鉄鉱山の未開発鉱区の開発および生産能力の拡張も完工しました。同鉱山の年間生産能力は2,900万トンから3,500万トンへ拡張され、既存の鉄鉱山と合わせ、ローブJ/Vの年間生産能力は約7,000万トンとなりました。

当社は、ローブJ/Vを通じ、中長期的に見込まれる鉄鉱石の世界的な需要増加に応えるべく、供給体制を整備していきます。

生活産業セグメント / コンシューマーサービス事業本部

## マレーシアのイスカンダール特別区での賃貸用倉庫・工場開発事業に参画

当社は、シンガポールとマレーシアの企業による合弁企業とマレーシアのイスカンダール特別区ヌサジャヤ地区にあるヌサジャヤテックパーク内での賃貸用注文建築型倉庫・工場開発事業に取り組む合弁契約を締結しました。新設する合弁会社は日系製造業を中心とした顧客を誘致し、同パーク内の7区画(約10ヘクタール)を開発する予定です。

シンガポール企業の多くは土地不足や賃料・人件費などの事業運営コスト上昇に悩んでおり、シンガポールに隣接するイスカンダール特別区はマレーシアにありながらシンガポールの金融サービス・インフラなどの機能を享受することができ、投資対象地域として有望視されています。

当社は、日系製造業などのイスカンダール特別区への移転誘致を目指すとともに、産業系施設開

発・不動産賃貸・金融事業の知見を活用して、すでに開発着手している同地域でのスマートシティ開発事業との相乗効果を追求していきます。



賃貸用倉庫のイメージ図 (©Ascendas Pte Ltd.)



## モロッコ



カサブランカのハッサン2世モスク

### ★ 躍動する北アフリカの要所

アフリカ大陸の北西端に位置する立憲君主制のモロッコ王国。北部を地中海に、西部を大西洋に面し、3,500キロメートルにも及ぶ海岸線を有する同国は、古くから北アフリカの交通の要所として栄えてきました。アフリカにありながら欧州にも至近の地理的優位性を活かし、欧州との関係性も深い同国は欧州向け製造拠点、欧州とアフリカを結ぶ物流・金融ハブ拠点となることを志向しています。首都ラバトの南西90キロメートルに位置するカサブランカはモロッコ最大の都市として商業・金融の中心地となっているほか、地中海を挟んでスペインからわずか14キロメートルに位置するタンジェ市に大型港が建設されるなど、産業基盤の整備も進んでいます。また、外国企業もその安定した政治と開放された経済から積極的に進出しています。



### ★ モロッコにおける三井物産

当社は、1961年にカサブランカ事務所を設立しました。

現在は当社のアフリカ7拠点の一つとして駐在員3名を含む10名で日本向けの食料や水産品の輸出、穀物や農薬の輸入といった貿易をはじめとして、日本製品・技術のモロッコへの導入や、同国での発電プラント建設といったインフラ関連事業など、新しい分野での取り組みや事業投資なども手掛けています。中でも、右ページでご紹介する案件に代表される発電事業や港湾・物流事業などを通じた同国の社会基盤整備への貢献に注力しています。当社は、アフリカビジネス推進の重要拠点であるモロッコにおいて、引き続き既存事業の着実な推進と新規事業の発掘を行っていきます。

#### 基礎データ

首都：ラバト

人口：3,252万人(2012年)

通貨：モロッコ・ディルハム

名目GDP：1,043.7億米ドル(2013年)

面積：44.6万平方キロメートル(日本の1.2倍)

出典：外務省

## ■モロッコの電力供給に貢献

当社は、フランスのGDFスエズ社（現エンジー社）、モロッコのナレバ社と共に設立した発電事業会社を通じ、サフィ市近郊で1,386メガワットの石炭火力発電所を建設しています。本発電所には発電効果の改善、環境への配慮がなされたアフリカ初の超々臨界発電技術が活用されており、2018年の運転開始後、30年間にわたり国内電力需要の約2割相当を担う一大プロジェクトです。

また、エルジャディダ市近郊のジョルフ・ラスファール石炭火力発電所内には韓国の大宇建設と共同で受注した5・6号機（700メガワット）は2014年6月に完工、順調に商業運転中です。

同国では経済成長に伴い、今後も電力需<sup>ひばく</sup>給が<sup>ひばく</sup>続くと予想されており、当社は電力供

給の一端を担うことで経済発展に大きく貢献します。また、モロッコ含めた北アフリカ地域では、発電を中心にインフラ案件が多数計画されており、当社は今後も案件開発に注力していく方針です。



エルジャディダ市近郊のジョルフ・ラスファール発電所

## ■「南南協力」の一環としてポーテック社による港湾研修支援を実施

モロッコ港湾庁港湾研修学院では、モロッコを含めたアフリカ各国から港湾部門関係者を集め、港湾開発や関連知見向上のための職業訓練を実施しています。2013年から同学院はJICA（国際協力機構）の支援の下、「南南協力\*」の一環としてサブサハラ諸国の港湾局の職員を対象に、港湾管理セミナーを開催しています。



2014年に開催された港湾管理セミナー

当社は、アフリカを含む世界各地で港湾の管理・運営を行い、豊富な知識・経験を有する子会社のポーテック・インターナショナル（以下：ポーテック社）と共に2014年から計3回にわたり実際にポーテック社が行うアフリカでの港湾事業の事例紹介や、公的資金制度を用いた日本とアフリカの協業の可能性について講義を行いました。約20名の参加者からは実例説明などを通じて知見が共有され、有意義と好評でした。

当社は、今後もポーテック社と共に、モロッコをはじめとするアフリカ諸国の港湾開発に取り組んでいきます。

※途上国の国・地域同士が開発において協力のうえ知識・経験交換を行い、互いに開発目標を達成すること。



# 世界の街角から

## 悠々のときを超えて —彩りあふれる魅惑の王国—

執筆者：三井物産株式会社カサブランカ事務所  
本吉 洋、湯川隆臣、芝野菜乃子

日本から西に約1万キロメートル、宗教はイスラム教、公用語はアラビア語・ベルベル語と、日本との接点がないように見えるモロッコ。しかし実は大のお茶好きで、広くたしなまれているミントティーで使う「緑茶」も三井物産が日本から輸入していた時期がありました。

日本人にはエキゾチックで遠いように見えて実は近いモロッコ、その魅力を紹介します。

### 知られざる2,000年の歴史

モロッコの歴史は、さかのぼること紀元前にベルベル人がこの地に現れたところから始まり、その後8世紀にアラブ人が当地を征服するまでフェニキア人やカルタゴ人など多様な民族が往来し、商業活動の中心として栄えてきました。世界初の世界一周紀行録『旅行記』を執筆したイブン・バトゥータはモロッコ人、北端タンジェの出身ですが、人や文化が絶えず行き交い、交わるこの地で掻き立てられた好奇心が彼を世界一周の旅へと導いたのかもしれません。

何を隠そうモロッコは、アフリカ大陸で最多の世界文化遺産を誇ります。モロッコの京都ともいべき古都フェズには世界最古の大学、カラウィーンモスクがあり、このフェズに加え、メクネス・テトウワン・マラケシュ・エッサウィラ・ラバト



マラケシュのモスク

にはアラブ人が8世紀に建てた旧市街メディナが今も当時の姿を残しています。一步メディナの中に入ると、外敵の侵入を阻む細く狭い道が迷路のように入り組んでいることが分かります。メディナの中には所狭しと店が立ち並ぶスーク（市場）が広がり、活気ある商人たちの声でにぎわっています。荷車を引くロバの姿を目にすると、まるで1,000年前にタイムスリップしたかのような感覚さえ抱きます。スークを歩けば、皮製のスリッパ「バブーシュ」、きれいな布やビーズで彩られた「かごバッグ」、ベルベル人伝統のカーペット、モロッコ絹で作られた「タッセル」、イスラム教に伝わるお守りなどの銀製品といった色とりどりの可愛いらしいモロッコ雑貨を見つけることができます。もちろん、値段交渉することを忘れずに！

旧市街メディナの入口





国の中央部を縦断するアトラス山脈

## 目を見張るほど、 鮮やかな色彩の数々

太陽がさんさんと輝くモロッコの特徴は目を引く独特な色合いです。多くの芸術家にも影響を与え、日本が誇る天才芸術家、岡本太郎もモロッコの大ファンでした。イヴ・サンローランもマラケシュのマジョレル庭園にほれ込み、晩年をこの庭園で過ごしました。マジョレルブルーと呼ばれるコバルトブルーと大胆な黄色の使い方が印象的なこの庭園を一目見れば、鮮やかな色彩と光が芸術家たちを魅了したのもうなずけます。

美しい彩りは食文化にも見られます。モロッコ料理の定番は、タジン料理とクスクスですが、どちらも彩りあふれる野菜と肉で食卓に華をそえます。タジン料理は、独特な形のタジン鍋（土鍋）を用い、水を加えずに、牛・鶏・羊肉や野菜など食材自体の水分のみで蒸して作られるヘルシーな料理です。この調理法は、フランス料理などにも影響を与えているといわれています。また、世界最小の Pasta のクスクスは、野菜や肉を煮込んだスープを具と共に混ぜ、イスラム教徒の聖なる日である金曜日や週末の家族団らんの際に食べるのが慣習です。「一番おいしいモロッコ料理のお店はどこ？」との問いには「Chez moi! (私の家よ)」との回答、いわばお袋の味というのでしょうか。家族を大事

にするモロッコ人の温かさ  
が垣間見えます。



色鮮やかなモロッコ風サラダとクスクス

## 豊かで雄大なる自然と 大地が生み出す“美”の源

景色といえばサハラ砂漠を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、北アフリカ最高峰のツブカル山をはじめとする4,000メートル級の山々がそびえるアトラス山脈、青い海を臨む港町など、多様な表情に満ちています。この厳しくも恵まれた自然に育まれる農業は、国の基幹産業として人々の生活を支えています。

世界第6位の生産量を誇るモロッコのオリーブの中には、荒涼とした土地を開拓した農園で厳しい環境を耐え抜き育つ種類もあり、癌・高血圧・糖尿病予防に効果ありといわれるポリフェノールを通常の30倍も含む奇跡のオリーブとして注目されています。また、世界で唯一モロッコ南部にのみ植生するアルガンの木から採れるアルガンオイルは、日米欧の美容業界でも脚光を浴びています。

## おわりに

歴史と自然に支えられ、彩りあふれる多様な魅力を内包する国、モロッコ。良い部分を大切に残しつつ、欧州・アラブ世界・アフリカのハブとして著しい成長を遂げるこの国のさらなる発展を支え、三井物産として社会的にも経済的にも豊かな国造りのお手伝いをしていきます。

# Shark Bay Salt Pty. Ltd.

地球の恵みで、暮らしを彩る。  
高品質の塩をオーストラリアの塩田からお届けします。



空から見たシャークベイの広大な塩田

三井物産は、日本および世界各国・地域に400社以上の関係会社を持ち、日々これらの関係会社と連携して事業に取り組んでいます。今回は、広大な塩田を保有し、アジア全域に供給している Shark Bay Salt Pty. Ltd.をご紹介します。

## Shark Bay Saltとは

野生のジュゴンやイルカが生息し、1991年に世界遺産にも登録されたほど幻想的な、オーストラリアの最西端に位置するシャークベイ。ここでShark Bay Salt Pty. Ltd. (シャークベイ・ソルト・グループ) は、雨が降らず、サイクロンの襲来も少ないという利点を活かし、環境への負荷がほとんどない天日干しによって安定した塩の生産を行っています。晴天が多く乾燥した気候により生み出された、外洋より50%も塩分濃度の高い清らかな海水と、太陽と穏やかな風に恵まれたこの場所は、まさに塩事業を手掛けるための条件がそろった奇跡的な土地といえます。

シャークベイ・ソルト・グループはこのシャークベイと、さらに北へ550キロメートルほどのオンズローにそれぞれ広大な塩田を保有しており、総面積は山手線の内側の面積の2.5倍に相当する広さ(155平方キロメートル)を誇ります。その生産量は年間350万トンで、アジア全域に供給しています。

## 生活の中の塩の存在

日本人は、一人当たり年間73キログラムもの塩に支えられて暮らしていることをご存じでしょうか。

一日に換算すると約200グラム。日々の食事でするのはもちろんですが、食塩の一日の平均摂取量は約11~12グラム。では、200グラムの残りは何にどんな形で使われているのでしょうか。実



は、塩はカタチを変えて暮らしの中に溶け込んでいます。日本全体での年間消費量は約800万トンです(2014年時点)。あまり知られていませんが、その8割は工業用塩として数々の加工を経て、皆さんの使っているバッグや、洋服、部屋の壁紙、座り心地のよい椅子になって人々の暮らしを彩っています。パソコンやスマートフォン、紙、洗剤、ガラス、合成繊維、人工皮革、さらには、住宅や建築資材など、本当に驚くほどカタチを変えて、身近なところで使われています。シャークベイ・ソルト・グループは、この塩の生産・物流・販売事業を手掛け、アジア市場における主要な供給者として高品質の塩を届けています。また食用塩では、「赤穂の天塩」にシャークベイの原塩が使われています。



赤穂の天塩

## シャークベイ・ソルト・グループ沿革

三井物産が塩の生産事業に乗り出したのは、1973年、日本・アジアの塩需要を満たすためにオーストラリアのシャークベイ塩田に出資したのが始まりです。その後2005年にシャークベイを100%子会社化し、2006年にオンズロー塩田の事業権益も取得、2009年に100%子会社化するなど、ビジネス形態を塩の物流・販売から、生産から物流・販売まで一貫して行うモデルへと変化させてきました。天日塩の製造業に進出することで市場での存在感を高め、物流機能も強化しながら、塩田事業の競争力強化および円滑な運営を追求しています。



貯塩場の視察風景

## アジアトップクラスの生産能力・品質を維持

当グループの強みの一つはその品質です。シャークベイの塩は、ほんのりと甘く、マイルドで食品関連用としても非常に高い品質を誇り、最近では付加価値の高い食品加工向けの輸出を拡大しています。一方、オンズローでは生産能力の拡張を通じて工業用塩の生産を強化し、日本をはじめとする極東・東南アジア諸国へ安定的に原料塩を供給しています。もう一つの強みはその立地です。シャークベイ、オンズロー両塩田は塩の需要の中心であるアジアに近く、合わせて、アジア市場でもトップクラスの生産能力を保有しています。このように、食用、工業用と幅広い要望に応えられる生産体制を持ち、恵まれた立地条件を活かして、必要な時に必要な数量をお届けすることによりさまざまなお客さまのご要望に応じています。

## 塩の製造工程

天日塩は、取り込んだ海水が段階的に蒸発池を経ていく中で塩分濃度が濃縮され、最後の結晶池で誕生します。これは1年半から2年ほどの時間

を必要とする、自然の営みです。その後、この塩を収穫、洗浄し、お客さまへ届けています。高品質の塩を作り出すためには海水の濃度・品質をはじめ、各工程でのきめ細かな管理が欠かせませんが、長年にわたる経験とデータの蓄積・分析に加え、従業員一同の情熱と愛情を塩に注ぎ込むことで、高品質を維持し、お客さまにご満足いただいています。

## 人々の未来へ

三井物産は、生活水準の向上と人口の増加を背景に今後も需要が増えることが予想されているアジア各国で、さらなる販売を展開する準備を進めています。シャークベイ・ソルト・グループの作った塩のファンを増やしつつ、必要な人たちに必要なときに品質の高い塩を届けられるようにと考えています。



高さ20メートルにも及ぶ塩の山

今日も、オーストラリアで採れた塩が、食卓に並び、日用品の原材料になり、水をきれいにしている。「地球の恵みで、暮らしを彩る」。三井物産の塩事業は、これからもそっと人々の暮らしを支え続けていきます。

## 社長からのメッセージ



Shark Bay Salt Pty Ltd.  
**宮原 浩貴**  
Chief Executive Officer

シャークベイ・ソルト・グループは、オーストラリアの北西部で二つの塩田を運営しています。当地の魅力の一つは素晴らしい自然環境。塩田の一つは、世界自然遺産であるシャーク湾の中に位置し、ジュゴンやイルカをはじめ豊かな自然に囲まれています。私自身、初めて当地を訪れた時の感動をいまだに鮮明に覚えています。そしてもう一つの魅力は、恵まれた塩田環

境。年間平均降雨量が日本の15%程度と格段に少なく、天日塩製造に適した土地です。ここで当グループは太陽と風という「天からの恵み」を得て海水から塩を製造しています。

一方でシャークベイの塩田は、近隣の街まで300キロメートル以上離れており、まさに「陸の孤島」です。社長として、従業員およびその家族に安心して働いてもらえるよう住宅の整備や子弟の教育施設・福利厚生を充実させることにも腐心しています。

「自然の営み」から生み出される高品質の塩を、日本をはじめとした世界中のお客さまのもとへ安定的にお届けすることをわれわれの使命として、今後も従業員と共に尽力していきます。



## 10周年を迎えた三井物産環境基金

三井物産環境基金は2015年7月、10周年を迎えました。当社独自のプログラムとして2005年の設立以来、持続可能な「未来につながる社会をつくる」ことを命題として、地球環境問題の解決のため、国内外のNPO・NGOや大学などのさまざまな活動・研究に対して支援を行い、2015年度上半期までの助成合計は507件、合計53億2,000万円となりました。

当基金は、助成分野の広さ、金額規模、期間の長さが特徴となっています。設立から10年の間に、「環境」という言葉の持つ意味は自然科学的なものからわれわれを取り巻くすべてのものへと大きく変化しました。このような変化に柔軟に対応し、助成対象分野も社会と環境とのつながりを重視した分野にまで広がっています。

また、助成金額の上限がないこと、助成期間が最長3年と長いことから、大規模のものから地域密着型の小さな取り組みまで幅広く、継続性が求められる活動や研究も助成案件の対象とすることができる仕組みとなっています。さらに、海外でも活躍する総合商社の基金として、海外で活動している在外・在日機関への助成にも力を入れています。

CSR

社会・環境への取り組み

10周年の節目である2015年は当基金のさまざまな取り組みを広く紹介するため、7月に「里山資本主義」などの著者、エコノミスト・藻谷浩介氏の講演会を開催、10月には「10周年記念 研究助成成果表彰式」を記念企画として開催、社会への貢献の観点から顕著な業績を上げた5つの研究に対する表彰を行いました。また7月に発行した10周年記念誌「10 YEARS」では、これまでの助成先で実際に活動を行っている“人”に焦点をあて、その活動の軌跡を通して基金の10年間の歩みを紹介しています。

三井物産環境基金は、今後も環境課題の解決に向けたさまざまな活動・研究を、幅広く支援していきます。

10 YEARS 15 PERSONS  
10年間で出会った15人



当社ウェブサイトよりぜひご覧ください。  
(<http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/fund/10years/>)

### 連結財政状態計算書 (要約)

(単位:百万円)

資産の部			負債及び資本の部		
科 目	2015年 3月末	2015年 9月末	科 目	2015年 3月末	2015年 9月末
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
現金及び現金同等物	1,400,770	1,454,645	短期債務	290,641	329,470
営業債権及びその他の債権	1,949,837	1,694,740	1年以内に返済予定の長期債務	472,718	398,225
その他の金融資産	384,156	342,661	営業債務及びその他の債務	1,384,039	1,229,454
棚卸資産	671,164	685,474	その他の金融負債	414,011	372,422
前渡金	188,545	200,117	未払法人所得税	41,877	35,349
その他の流動資産	136,051	128,534	前受金	177,432	187,920
			引当金	25,523	16,351
			その他の流動負債	34,900	38,394
<b>流動資産合計</b>	<b>4,730,523</b>	<b>4,506,171</b>	<b>流動負債合計</b>	<b>2,841,141</b>	<b>2,607,585</b>
<b>非流動資産</b>			<b>非流動負債</b>		
持分法適用会社に対する投資	2,791,341	2,711,846	長期債務	4,030,598	4,022,682
その他の投資	1,529,767	1,395,327	(1年以内返済予定分を除く)		
営業債権及びその他の債権	425,136	378,220	その他の金融負債	147,289	125,348
その他の金融資産	130,974	137,697	退職給付に係る負債	46,211	43,895
有形固定資産	2,148,142	2,121,974	引当金	228,540	228,298
投資不動産	147,757	153,508	繰延税金負債	482,141	436,964
無形資産	162,951	169,484	その他の非流動負債	29,627	31,867
繰延税金資産	78,746	64,954			
その他の非流動資産	57,584	59,017	<b>非流動負債合計</b>	<b>4,964,406</b>	<b>4,889,054</b>
			<b>負債合計</b>	<b>7,805,547</b>	<b>7,496,639</b>
			<b>資本</b>		
			資本金	341,482	341,482
			資本剰余金	411,881	407,572
			利益剰余金	2,537,815	2,622,217
			その他の資本の構成要素	814,563	541,271
			自己株式	△5,946	△5,956
			親会社の所有者に帰属する	4,099,795	3,906,586
			持分合計		
			非支配持分	297,579	294,973
<b>非流動資産合計</b>	<b>7,472,398</b>	<b>7,192,027</b>	<b>資本合計</b>	<b>4,397,374</b>	<b>4,201,559</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,202,921</b>	<b>11,698,198</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>12,202,921</b>	<b>11,698,198</b>

## 連結損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

科 目	前年同期 (2014年4月~9月)	当上半期 (2015年4月~9月)
収益	2,747,569	2,497,832
原価	△2,327,327	△2,107,241
<b>売上総利益</b>	<b>420,242</b>	<b>390,591</b>
その他の収益・費用:		
販売費及び一般管理費	△281,361	△283,371
有価証券損益	9,305	16,070
固定資産評価損益	△812	4,808
固定資産処分損益	439	11,517
雑損益	△8,574	△19,185
<b>その他の収益・費用計</b>	<b>△281,003</b>	<b>△270,161</b>
金融収益・費用:		
受取利息	16,735	15,945
受取配当金	76,932	25,977
支払利息	△24,634	△25,597
<b>金融収益・費用計</b>	<b>69,033</b>	<b>16,325</b>
持分法による投資利益	103,809	88,275
<b>法人所得税前利益</b>	<b>312,081</b>	<b>225,030</b>
法人所得税	△79,207	△79,275
<b>四半期利益</b>	<b>232,874</b>	<b>145,755</b>
四半期利益の帰属:		
親会社の所有者	222,660	130,641
非支配持分	10,214	15,114

## 連結包括損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

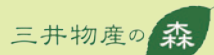
科 目	前年同期 (2014年4月~9月)	当上半期 (2015年4月~9月)
四半期利益	232,874	145,755
その他の包括利益	127,846	△271,904
<b>四半期包括利益</b>	<b>360,720</b>	<b>△126,149</b>
四半期包括利益の帰属:		
親会社の所有者	343,404	△132,039
非支配持分	17,316	5,890

# 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位:百万円)

科 目	前年同期 (2014年4月~9月)	当上半期 (2015年4月~9月)
四半期利益	232,874	145,755
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整項目:		
減価償却費及び無形固定資産等償却費	142,443	125,929
退職給付に係る負債の増減	△ 1,725	△ 675
貸倒引当金繰入額	6,359	6,456
有価証券損益	△ 9,305	△ 16,070
固定資産処分損益及び評価損益	373	△ 16,325
金融収益及び金融費用	△ 65,273	△ 11,555
法人所得税	79,207	79,275
持分法による投資利益	△ 103,809	△ 88,275
営業活動に係る資産・負債の増減	△ 27,516	56,952
利息の受払額	△ 6,462	△ 5,537
配当金の受取額	184,380	112,350
法人所得税の支払額	△ 57,858	△ 62,737
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>373,688</b>	<b>325,543</b>
定期預金の増減	△ 976	89
持分法適用会社に対する投資等の増減	△ 66,191	△ 10,106
その他の投資の増減	25,583	6,769
長期貸付金の増減	22,384	5,730
有形固定資産等及び投資不動産の増減	△ 170,766	△ 154,175
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 189,966</b>	<b>△ 151,693</b>
短期債務の増減	35,646	46,968
長期債務の増減	175,857	△ 77,080
自己株式の取得及び売却	△ 11	△ 10
配当金支払	△ 60,955	△ 57,369
非支配持分株主との取引	△ 8,314	△ 9,603
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>142,223</b>	<b>△ 97,094</b>
現金及び現金同等物の為替相場変動の影響額	19,083	△ 22,881
売却目的保有資産に含まれる現金及び現金同等物	△ 673	—
現金及び現金同等物の増減	344,355	53,875
現金及び現金同等物期首残高	1,226,317	1,400,770
現金及び現金同等物四半期末残高	1,570,672	1,454,645

商号	三井物産株式会社 (MITSUI & CO., LTD.)		
設立	1947年7月25日		
資本金	341,481,648,946円		
従業員	連結	47,118名	単体 6,006名
事業所(※)	国内	12拠点	海外 128拠点
連結対象会社数	子会社	279社	
	持分法適用会社	166社	
ホームページ	http://www.mitsui.com/jp/ja/		



当社は、日本全国74か所、合計約4万4,000ヘクタール(日本の国土面積の約0.1%に相当)の社有林「三井物産の森」を保有しています。

京都府に位置する清滝山林(表紙写真)では、京都の伝統行事である「大文字五山送り火」や「鞍馬の火祭」に必要な松明などに使うアカマツ・コバノミツバツツジの育成が行われており、「文化的保護林」として区分しています。

株式情報 (2015年9月30日現在)

株式の状況

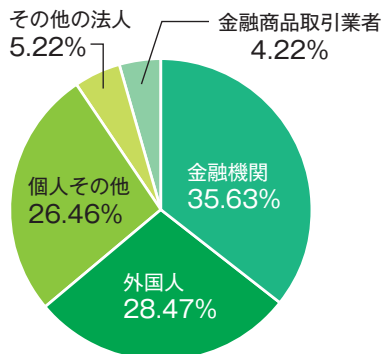
発行済株式総数 1,796,514,127株 (自己株式3,751,566株含む) 株主数 344,233名

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数(注1)	持株比率(注2)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	117,226千株	6.52%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	84,391千株	4.69%
株式会社三井住友銀行	38,500千株	2.14%
日本生命保険相互会社	35,070千株	1.95%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	28,680千株	1.59%
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	25,563千株	1.42%
パークレイズ証券株式会社	25,000千株	1.39%
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	24,792千株	1.38%
三井住友海上火災保険株式会社	24,726千株	1.37%
第一生命保険株式会社	20,444千株	1.13%

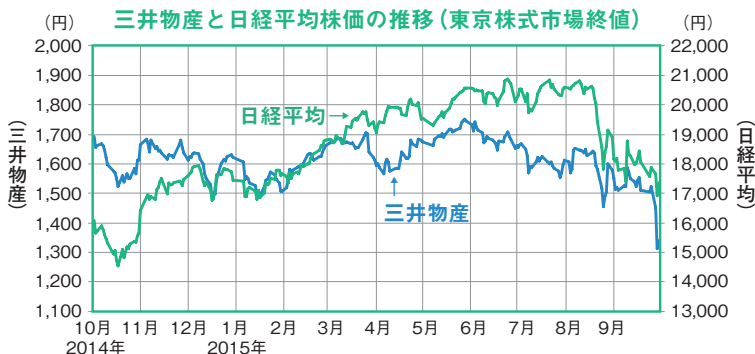
(注1) 千株未満は、切り捨てています。(注2) 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てています。

株主構成比



株価の推移 (2014年10月1日～2015年9月30日)

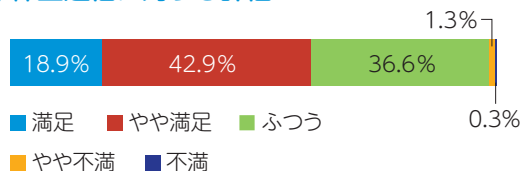
2015年9月30日終値1,340.5円、期間中最高値1,750.5円(2015年5月28日)、最安値1,312.0円(2015年9月29日)



## 株主さまアンケート結果のご報告

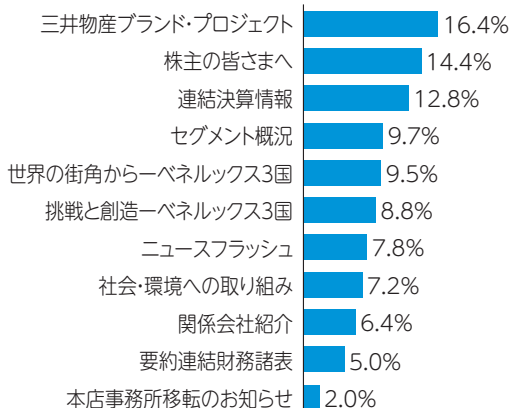
株主通信2015年夏号で実施させていただきましたアンケートに、27,497名の株主の皆さまからご回答をいただきました。ご協力に心よりお礼申し上げます。

### Q 株主通信に対する評価



事業内容のさらなる説明、写真を多くしてほしいというお声も多くいただきました。今回新たに取上げた「国内ビジネス」はいかがでしたでしょうか。ぜひご意見をお寄せください。今後も皆さまからの貴重なお声を活かしてまいります。

### Q 2015年夏号の株主通信で ご興味をもたれた記事



### ■株主メモ

証券コード:8031

事業年度:4月1日から翌年3月31日まで

期末配当基準日:毎年3月31日

単元株式数:100株

株主名簿管理人・特別口座管理機関:三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
(連絡先)三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

**0120-782-031**(通話料無料)(受付時間:土・日・休日・年末年始を除く9:00~17:00)

公告方法:電子公告(ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合には日本経済新聞に掲載します。)

\*公告掲載の当社ホームページアドレス <http://www.mitsui.com/jp/ja/koukoku/index.html>

上場証券取引所:東京、名古屋、札幌、福岡

定時株主総会:毎年6月

中間配当基準日:毎年9月30日

### 【住所変更など各種事務手続きに関するお問い合わせ先】

◎証券会社などの口座で株式を保有されている株主さま:お取引のある証券会社にお問い合わせください。

◎特別口座で株式を保有されている株主さま:三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

電話番号:**0120-782-031**(通話料無料)(受付時間:土・日・休日・年末年始を除く9:00~17:00)

### 【未払配当金のお支払いに関するお問い合わせ先】

◎株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

電話番号:**0120-782-031**(通話料無料)(受付時間:土・日・休日・年末年始を除く9:00~17:00)



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



環境に配慮した植物油インキを  
使用して印刷しています。

### ご注意:

本冊子に記載されている将来予測その他の情報は、現時点での判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、目標や予想の達成、および将来の業績を保证するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本冊子の情報の利用の際には、ほかの方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。